

東京 IPO 特別コラム

2016年12月27日 Vol.61

新春相場に思いを寄せて

トランプ効果で円安、株高が続く流れが見られる一方で、IPO 銘柄が多いマザーズ指数は比較的落ち着いたまま年の瀬を迎えようとしています。輸出関連銘柄や金融株など主力株銘柄が強い局面では何も好き好んで内需系の中小型株を買う必要はないという投資家心理の表れではありますが、こうした流れはあと残りわずかの年末相場では多少異なったものになるのかも知れません。トランプ相場に乗って上げてきた主力銘柄ですが、1ドル=118円台までの円安トレンドが若干伸び悩む兆しも見えてきたことから利益確定の心理も働くことになってきましたので、そうしたお金は調整が続いたマザーズ銘柄にも入る可能性があるとの読みです。低迷が続いてきた銘柄への反転上昇の動きが察知されると足が軽いための大きなリバウンドにもつながるものと考えられます。

年末相場が堅調に推移する中で12月のIPO銘柄は既に13銘柄が上場を果たしそれぞれに悲喜こもごもの展開を見せています。本日のティビィシィスキャット(3974)で2016年のIPOは終わりますが、いつもの年とは違って既にこの時期に1月27日に上場するシャノン(3976)という銘柄の2017年初のIPOが発表されています。ZMPの上場延期などでやや盛り上がり欠けたIPO市場ながら12月は本日分まで含めて14の銘柄が上場し、全体相場の上昇局面の中で、いつの間にかそれぞれにホットな値動きを見せています。

とりわけ12月21日に上場したITシステム、ネットワークセキュリティ事業を展開するセグエグループ(3968・JASDAQ)、法人向けインターネットマーケティング支援事業を展開するイノベーション(3970・マザーズ)の2社は初日に値がつかず、初値が公開価格の3倍以上となるなど人気が沸騰しました。このほか21日マザーズ上場のマニュアル作成事業のグレイステクノロジー(6541)が公開価格3100円の2.3倍で初値をつけ、22日上場の業務効率化に寄与するワークフローパッケージのエイトレッド(3969・マザーズ)も公開価格1800円の2.3倍で初値をつけるなど活況を呈しています。また、19日に上場したコンタクトレンズメーカーのシンシア(7782・マザーズ)が初値こそ1950円で公開価格を7%余り下回りましたが、その後4日目に3485円の高値をつけるなど上場後から人気を集めています。来期の業績の高い伸びが期待できるとの思惑が働いたと見られます。

このように12月のIPO相場は全体相場に牽引され、比較的堅調な展開を見せています。ホットな値動きの中に新春への期待を織り交ぜながら投資家の銘柄選びが続いているように思われます。残念ながらオークネットやZMPといった銘柄の上場延期などから今年のIPO銘柄の数は83に留まり昨年の92銘柄から減少していますが、既に2017年の第1号銘柄が発表されているように市場関係者の前向きな努力が期待されます。ただ、一部の銘柄に見られたような上場後に大幅な業績の下方修正に至るケースは避けないとなりません。より優良な成長期待の高いIPO銘柄の登場を心待ちにした

東京 IPO 特別コラム

いと心より願っています。また、丁寧かつ、わかりやすい経営者の前向きな説明がない IPO は投資家にとって適切な判断材料を得られないこととなります。つまり IR なき一方的な IPO は罪作りになるということを IPO 予定企業及び市場関係者は肝に銘じる必要があるのではないのでしょうか。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)